

「ヴォイド」の形態特性による都市空間の分析

正会員 ○陸野 泰寛*1
同 近藤 正一*2
若山 滋*3

【はじめに】都市環境は、道路や建築や看板など、主として計画され設計された構築物によって構成されているが、それらは同時に都市のあちこちにある種の「隙間」を作り出している。ビルとビル間の空地や表通りから外れた路地など、さまざまな隙間は、複数の意図によって計画された空間によって切り取られた空隙であり、意図的なもの、偶発的なもの、有用なもの、忘れ去られたもの、それぞれの性格を有した都市空間として遺されており、都市の裏空間としていささか魅力的でもある。本研究では、そういった隙間を都市空間における「ヴォイド」と定義し、その周辺環境による構成形式を、形態と機能の面から明らかにすることにより、都市空間に内在する正統な空間として捉え直すことにする。

【都市空間におけるヴォイドの定義】ヴォイドという言葉には「中に何もはっていない、価値や内容がない」という意味があり、例えば、大通りから離れた路地や、周りが建物によって囲まれた中庭のような周囲との関係性が薄い都市空間の隙間が相当する。本研究ではそのような空間を限定するため、人が行動できる範囲で3方向以上が建築物(1方向を地面・建築物の屋上とする)によって囲まれた(切り離された)隙間をヴォイドと定義する。屋上・地下等の区別は問わない。アトリウムなどの建築内におけるヴォイドは、建築の構成において意匠的側面を考慮して計画されており、周辺環境との関係性を持たない空間であると考え、除外する。

【研究方法】名古屋の都心部において、同一地域に性格が異なる3つの区画(錦・栄・大須)が存在する区域において現地調査を行い、それを補完するものとして写真を用いた。研究資料として抽出した138のヴォイドを分析し、以下の項目により分類して構成形式を捉える。(図1は写真などをまとめた分析例)

【形態と「利用」の関係から見るヴォイドの考察】定義を基として形態を捉える際、基本形態として8パターンが考えられる。また大小様々なヴォリュームが存在する以上、それらも分類する必要があるため、開放面に対する平面比を3種類に規定したものを設け(図2)、そのタイプによって以下の項目で分類を行う。機能を捉えるために、人に関わる「利用」という面から考察を行う。まず、図3のように利用対象としてのヴォイドであるかという3タイプを設定し、さらにその利用対象をつくりあげている都市空間において顕著なビルディングタイプを「店舗(オフィスを含む)」「店舗兼住宅」「住宅」に分類する(図4)。以上により形態と機能についての分析を行う。表1では抽出した138の対象物を基本形態にあてはめ、ヴォイドを構成している建築物の数を軸として上記に挙げた項目によりプロットしていく。プロットによって導き出された集合でそのタイプを分けをする。屋上にあるヴォイドは、底面として構成している建築物を数に含めず、周辺を囲んでいる数によって構成数を見る。(表1上同セルの右側に表記する)

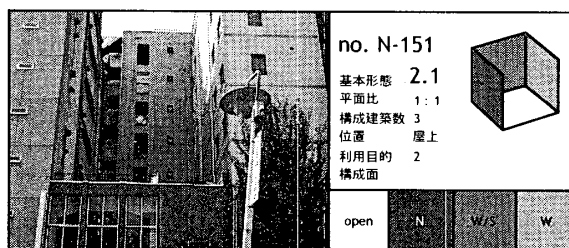


表1

1:1	1:2	1:4
-----	-----	-----

表2

表3

	1	2	3
店舗	○	●	■
店舗・住宅	△	▲	□
住宅	◇	◆	◇

表4 ヴォリュームと構成建築数

基本形態	平面比	1	2	3	4	5	構成建築数	6
1	1:1							
	1:2							
	1:4							
1.2	1:1							
	1:2							
	1:4							
1.3	1:1							
	1:2							
	1:4							
2.1	1:1							
	1:2							
	1:4							
2.2	1:1							
	1:2							
	1:4							
2.3	1:1							
	1:2							
	1:4							
3.1	1:1							
	1:2							
	1:4							
3.2	1:1							
	1:2							
	1:4							

The urban space analysis according as each of characteristic form of "void"

MUTSUNO Yasuhiro, KONDO Shoichi, WAKAYAMA Shigeru

【形態と「周辺構成要素」から見るヴォイドの考察】「利用」という側面とは逆に物理的要因を取り上げる。ヴォイドにおいて人の感覚を訴えるきっかけとなり得るものは、周囲の建物の表層であり、それらを覆う窓や扉といったものである。都市空間における建物の表層を形成する主要素として図4に示す7つを用いる。ヴォイドを取り囲んでいる面を開き、構成要素ダイアグラム(図5)として要素をあてはめる。7つの組み合わせを見たときのダイアグラムは、5タイプとなり(図6)、それらを基本形態によって分類し分析する(表2)。本研究における構成要素の記号は、窓や扉などの数による記号内容と顕著な相違は現れないため敢えて行わないこととする。

【考察】以上の結果を基にヴォイドの類型化(図7)を行い、都市空間において顕著なものを4タイプ12パターンに分け、それらと都市空間との関係を示した(表3)。私的型の『1.1』は屋上に発生しやすく、高さによって他の建築と「孤立」することにより形成され、『3.1』は周辺によって囲まれるかたちで存在し、「独立」という私的空間を都市の中につくっている。しかし『1.1』『3.1』がプライベートの獲得だったのに対して、『1.2』は過度の密集によるパブリックの欠如とも呼べるプライベート性によって、ヴォイドが特有の空間を作りだしている。設備型は、都市環境にとって奥の空間であり設備機器を押し込める場所として考えられる。『1.1』は設備機器が付属されただけで空間を決定づけるものではないが、『2.1』においてはその場所をネガティブなものとして遮断してしまい、周辺環境へも影響を及ぼしかねない。視線や動線・空調など都市環境をかたちづくるものとして、『1.1』に対応する隣接、『1.2』の介在、『2.1』の包含の3パターンが環境型として存在し、周辺との関係性によって成り立ち、開・閉に分けられる。都市は、ほぼ環境型で占められ、それらの連動性によって成り立っている。ヴォイドは周辺の建物によってつくられる空間であるが、私的型の『1.2』、設備型の『2.1』などのように周辺にも影響を与える能動的な空間も存在する。

【結】路地空間などに代表される都市の「ヴォイド」は、あるいは電線に覆われ、あるいは洗濯物などの浸食を受け、あるいはまたゴミ箱や植木が置かれるなど、人間の生活と関連することにより、都市空間の中で、ある種自律性を持った一つの機能空間となっている。ヴォイドの形成要因は多分に受動的といえども、それらの中には「密集型」「触発型」など能動的に都市空間に影響を与える可能性を持つものがある。都市と建築との関係において<地>であるヴォイドは、他律性と自律性を持ち、それらの空間の集積によって都市空間の多義的状況を引き起こす。

周辺環境要素	数記号	人の関与
窓	open	人の選別する
ベランダ	V(veranda)	
扉	W(window)	
階段	S(stair)	
開口(設備)	E(equipment opening)	の上層からの
(何もない)	N(no)	

図4 周辺環境要素

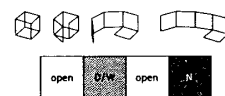


図5 構成要素ダイアグラム



表2 形態と周辺環境

	1	2	3	4	
1.1	N-4 S-107 O-108 N-155	S-69 O-117 N-111 N-150 S-70 O-124 N-116 N-131 S-71 O-130 N-124 N-131 S-45 S-78 N-161 S-86 N-160 S-48 S-79 S-179 N-25 N-161 S-60 S-82 O-185 S-74 N-169 S-61 O-113 N-34 S-108 N-192	S-99 O-123 N-151 S-92 N-15 N-67 N-131 N-160 N-161 N-169 N-192	N-38 S-96 N-39 S-84 O-128 N-23 O-137 S-218	
1.2	S-83 N-173	N-20 S-81 N-168	S-90 N-27 O-212 O-143		
2.1	N-6 S-183 N-8 N-7 N-158 O-126	N-20 S-81 N-168 S-63 N-158 N-32 N-151 N-169 O-123 S-181 O-200 N-165 N-16 S-182 S-99 O-191 O-209 N-166 S-109 O-189 S-148 O-195 O-217 O-216 N-157 S-175 N-156 N-2 O-210 O-211 O-165	N-20 S-81 N-168 S-63 N-158 N-32 N-151 N-169 O-123 S-181 O-200 N-165 N-16 S-182 S-99 O-191 O-209 N-166 S-109 O-189 S-148 O-195 O-217 O-216 N-157 S-175 N-156 N-2 O-210 O-211 O-165	N-38 S-96 N-39 S-84 O-128 N-23 O-137 S-218	
2.2	S-47 S-85 N-87 N-172 S-214 N-41	S-42 S-111 N-174			
3.1	N-14 S-72			S-73	
3.2	N-150				

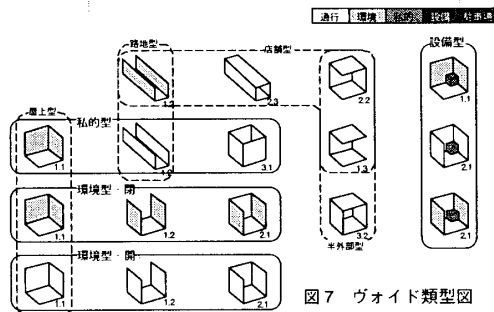


図7 ヴォイド類型図

私的型	1.1 孤立	1.2 密集	3.1 独立
設備型	1.1 付属	2.1 埋没	2.1 触発
環境・開型	1.1 隣接(開)	1.2 介在(開)	2.1 包含(開)
環境・閉型	1.1 隣接(閉)	1.2 介在(閉)	2.1 包含(閉)

*1 名古屋工業大学大学院博士前期課程
*2 名古屋大学助手・修士(工学)
*3 名古屋大学教授・工学博士

Master's course, Nagoya Institute of Technology
Reserch Assoc., Nagoya Institute of Technology, Master. Eng
Prof., Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng